

コケッコッコ

はじめのコケッコッコと同じ。

寶さがし

全生圓形に座り鬼が一人圓の内に入る。豫め用意してある小石やおはじきの様なものを曲に合せはて隣から隣へ

談話

第一週

暦の話

まづ手近く、「今日」の暦の話から始める。

「今日は一月の何日でせうね」

なき、聞いて見る。この頃になるに、ボールドのはしなごに今日の日を、一月十日さか、或は洋數字で書いておいたりするので、大ていは答へられる。昨日は、明日はさつづいてきいて見たりもする。

曜日と同じく、

「今日は何曜日かしら」

渡して行く。全生が休みなくいつも手を動かしておらねばならない。鬼は小石の行く先をよくみてゐる。最後の曲の終りで皆手を握り下向けにして兩手を前にのばす。鬼は誰の手の中に小石があるかを當てる。當らない時は一度鬼をする。當つた時は當てられた者が鬼になる。

さきいて見るに、案外はよく知つてゐる。土曜日曜がある爲に曜日の方は覚え易い。それから一月、二月、三月、四月さ、先生も一緒にこなへて見る。かうした事を、今日一度したら間を置くまいふ事なく、二三日は毎日くり返す。又しばらくしてから又二三日つゞけて、さいふ方法をさる。

第二週

世界各國の旗

年少組の時には、日の丸のはただけにしておいた。年長組にもなれば、各國に夫れ々の旗のあるこま、さの國の

はざれ位ミ二三は知らせるのもよし。それにはたゞ單に模造紙で作つて、衝立に貼つておいてもいゝが、誘導保育案の主題によつては、たやすく是れを取り入れられるものがある。例へば運動會、園遊會なごの裝飾用に。夏ならば各國の船を浮べて、それに掲げてもいゝ。

「世界中の海が」(吟誦)

せかい中の海が、みんな集つて、一つの海になつてしまつたら、みんな大きな海になるでせう。

せかい中の木が、みんな集つて、一つの木になつてしまつたら、みんな大きな木になるでせう。

せかい中の斧が、みんな集つて、一つの斧になつてしまつたら、みんな大きな斧になるでせう。

せかい中の人が、みんな集つて、一人の人になつてしま

観 察

第一週

六八

つたら、みんな大きな人になるでせう。
大きな人が、大きな斧で、大きな木をきつて、大きな海へ、づしん、ざさりきたふしたら、みんな大きな音がするでせう。

これはいろいろに譯されてゐるが、この譯し方が一番子供には覚え易く、意味もわかり易いと思ひ、これを用ひてゐる。

第三週

六勇士

六人の勇士が、夫れづづ思ひきつた行動で活躍するのは、殊に大きい組の子供には我が意を得たようなうれさで興味を持つ。これも原作はもつゝ複雑で、一人の行爲がなかく長いし、混み入つてゐるのを、それでは、六人の一人づゝの行爲がはつきりしないので、わかり易く改作したところもある。

カレンダー